



表2 セルフチェックシート(一部抜粋)

自己評価項目 (専門職としての知識や技術)	
利用者本位のケアマネジメントの実現にむけて	サービス利用の選択と決定を支援している
	いつでも信頼できる相談と対応を行っている
	利用者や家族とニーズを共有している
介護保険制度の熟知と運営基準順守	利用者や家族が介護保険制度のことを理解できるように説明できている
	実践の過程で運営基準を順守している
利用者に効果的なケアマネジメント展開をしているか	必要に応じてアセスメント内容(利用者や介護者の生活状況)を変更している
	目標達成をモニタリングで確認できている

※1 このほか「ケアチームの一員としてケアマネジメント参画しているか」「地域ケアシステムの構築に向けて」等の9分類、それぞれに2~7の項目あり  
 ※2 各項目で「Ⅰ=実践出来ている」「Ⅱ=実践できているが専門的学習が不足している」「Ⅲ=実践できており、経験と専門性をもってスーパーバイズできる」の3段階評価を行う

専門研修への具体的提案として

報告では、専門研修Ⅰは研修体系上、実務従事者基礎研修の次に位置

みが必要との提案から、表2の「セルフチェックシート」を作成しました。これは現状で取り組むべき点とその到達点を項目ごとに自己評価し、利用者の個別性を重視したケアマネジメントへの意識を促すものです。なお、このシートは本年度、本会および横浜市・川崎市社協が合同で開催した専門研修Ⅱにおいて受講者に記入していただきましたが、将来的には資質向上研修全体で使用できるように、改良していく予定です。

(N) 神奈川県介護支援専門員協会  
 専門研修部会長 山本 玲子  
 (歩歩居宅介護支援事業所 管理者)



「当事者が考える資質向上研修」

ケアマネの資質向上のための研修機会は介護保険制度施行直後と比較すると、専門研修等法定研修だけではなく、行政や地域包括支援センターによる公的機関研修や地域連絡会主催研修、法人や事業所の独自企画など格段に質量感を増しています。

ところが受講者であるケアマネとしてのわが身を振り返れば、専門職として学ぶべき内容の広さ深さにその都度襟を正す思いになると同時に、ともすれば受講することで精一杯！研修から日常に戻ると目の前の業務に忙殺され、その成果を仕事に着実に反映させるに至らない…という反省も。

この部会は、受講当事者であるケアマネ自身が自らの現況を踏まえた上で、効果的な専門研修の進め方を討議・検討するという場を与えられた貴重な経験でした。地域に貢献し、市民の暮らしを支援する役割を担うケアマネのために実効性ある研修とは何なのか、引き続き自分たち自身で考え続けることが大切なことだと思います。

する研修のため、「ケアマネが身につけるべき基礎的知識の仕上げ」と位置づけ、「チームアプローチ」「サービスの連携活用」「地域でのソーシャルアクション」等の理解を通じ、各種サービスや他の社会資源(ボランティア等)を単体の利用にせず、連携活用により主眼を置き、利用者の自立支援を共に行う意義を学ぶことの重要性を挙げています。さらにサービスや社会資源は既存のものを活用するだけでなく、ケアマネ自らが提言し創出するという視点を研修で伝えることも重要としています。

また、専門研修Ⅱでは受講者の経験差が大きいことから、「対人援助者としての自己確認をする反復研修」と位置づけて、利用者・家族へ

の理解やチームケアの重要性等の再確認を受講者本人の経験・実績に応じて体験できるように、演習場面のグループ討議の活用を提案しています。

さらに居宅介護サービス事業所のケアマネと福祉施設内で勤務するケアマネでは、実務場面での差異から現在も別カリキュラムで研修が実施されていますが、双方のケアマネの実情をより考慮した、効果的なカリキュラムのあり方を継続的に検討することが必要としています。

本会ではこれらの提案を受け、ケアマネの皆さんが自らの役割を再認識し資質向上が図られるよう、他機関とも連携の上、より良い研修の構築に取り組みたいと思います。(福祉人材研修・介護支援専門員支援担当)